



JA新しいわたでの自己改革

もっと知ろう、JAの取り組み

JA新しいわたの「農家所得の増大」や「地域の活性化」に向けた取り組みを紹介。今月は、GAPの取り組みについて紹介します。

GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことです。

従来以上の高い安全性と信頼確保のため、以下の5つの基本項目を主眼として取り組みます。



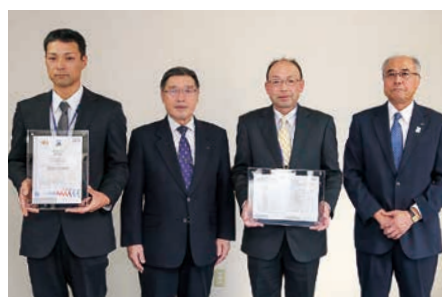
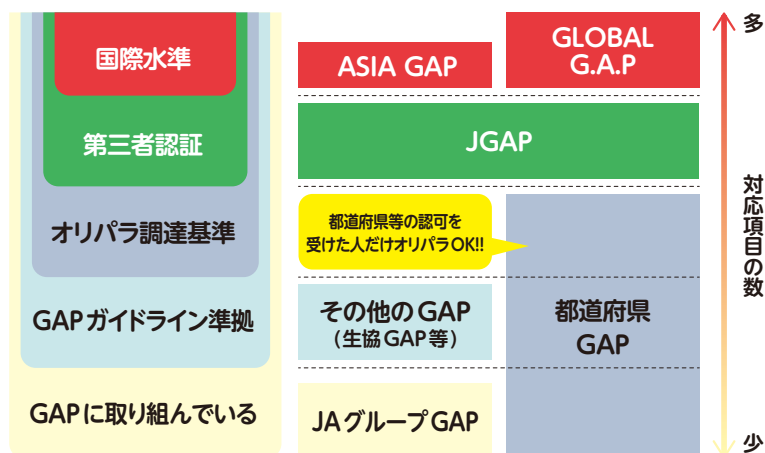
GAPを取り入れることにより、結果として持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に資するとともに、消費者や実需者の信頼の確保が期待されます。

JA新しいわたでのGAPの取り組み

JAでは、10年、20年先を見据えた産地作りを進め、持続可能な農業の実践に向けGAPの推進を進めています。平成30年7月には、久慈地域のハウレンソウ生産者11人で構成する久慈地域南部地区ほうれん草協会（現在：やませの大地 翠の会）が県内で初となる岩手県GAPの団体での登録となりました。また、昨年11月には奥中山地域のレタス生産者4人で構成するJA新しいわた奥中山高原◎、レタス推進チームと、宮古地域のブロッコリー生産者9戸で構成するJA新しいわた宮古地域ブロッコリー生産グループが国際水準のグローバルGAPの団体認証を取得し、JAグループでは県内初の団体認証取得となります。

今年開催される東京オリンピック・パラリンピックの選手村への食材供給はGAPを実施していることが要件とされています。今後も、GAPを通して責任産地としての取り組みを進めていきます。

GAPの種類と相関図



グローバルGAPの団体認証を取得した2団体と関係者が、小野寺組合長に認証取得を報告しました。